手間がかかる「無駄」な行為は、手紙を手書きするという行為だと思う。現代では電子機器が発達し、メールでやり取りをすることが多くなった。電子機器はすぐに相手に届けられるという利点はあるが、誰でも同じ文章で同じ字体であるため気持ちを伝えるのには不十分であると考える。

手紙を手書きするという行為が生み出す価値は、自分の思っていることがそのまま伝わりやすいということである。手紙は時間もお金も余計にかかるのは確かだが、相手のことを深く考えて書くことで相手への気持ちが特別なものになると考えている。私は毎年、年賀状を書いている。手書きの年賀状は電子機器と違いひとりひとり違いがある。字の形、書き方、筆圧など同じようには書けず、気持ちが手を伝わっていくようにも感じられる。電子機器と違い、一発勝負で書くというのもよくよく考えてからでないと書けないため、相手に対しての気持ちが強く宿るという価値があると考える。

手紙は書く際には時間もお金もかかり大変である。手紙が「相手に対しての気持ちが強く宿る」という価値が生まれるのは、書きながら相手のことを深く考えているためである。